

2014 年度（平成 26 年度）第 1 回河川工作物アドバイザー会議 論点等整理

1 ルシャ川の取扱いについて

- ※千鳥にダムを切るなら、第 2 ダムの切る位置を左岸側でなく右岸側にした方が適当。
第 2 ダムの右岸側には冬場、暖かい湧水が溜まっていて現在もシロザケの産卵が多く見られる。
- ※千鳥に切ったダム間の方向・範囲内で適切に滯筋が振れば良いが、ダムを切る幅 40 m は現状の滯筋よりも明らかに広いため、上流ダムから流下した水がそのまま下流のダムへ流れ、水制工状態となったダム周りが洗掘される危険がある。直線的に切っても 40m 幅があるのでその中で滯筋が振れると考えた方が妥当。
- ※河畔に成立した林帯は、土砂流出防備保安林であること、流出すると漁業被害の懸念があることから、これを保全することとしてダム改良を設計した。
- ※林帯を保全するようダムを千鳥に切るとの提案だが、元々の自然が砂礫で覆われた扇状地で、その部分に湧水があったとすれば、林帯があることによりシロザケの産卵できる可能性を潰してしまっているとの解釈もできる。
- ※林帯は流木の抑止効果もあるが、流木の発生源ともなってしまうので、都合の良い面ばかりから捉えない方が良い。
- ※ダム上流右岸の築堤は撤去し、もっと広い氾濫源としたほうが良い河畔になるのではないか。
- ※ダム上流右岸の築堤を撤去した場合、滯筋が右岸側に寄ってしまい、水制工となったダムの堤体そのものに水流が当たってしまうことが想定され危険である。
- ※第 2、第 3 ダム右岸側の水抜き穴は 30cm と小さく、現在埋まってしまいその上流はプール状になっている。埋まっているものをこの状態のまま除去しても再度埋まることが想定されるので、もう少し穴を大きくするのが適切。

<会議に欠席された丸谷委員から頂戴したご意見>

- ※平面的には、河川は洪水のたびに流路変動しているということを考慮しておく必要がある。30 cm 級の礫が散乱していることから、どの程度の掃流力があるか推定し、洪水の際には多くの砂礫が移動して流路が変わることを考慮しておく必要がある。
- ※カットした場合の低水流路の縦断形がどうなるか心配。この地域は網状帯ないしは蛇行帯のようだが、数本の流路が 1 本の流路に収束する点では水路幅あたり流量が急激に増加し、洗掘されニックポイント（落差）が形成される。このダムは、天端によって河床を一定以上に掘り下げない役割もしていたので、ダムを基部まで撤去するとこの役割（ローカルベースレベル）がなくなることになる。

(H26 第 1 回 A P 論点)

- ダムの切り方を千鳥にする場合は水理実験を行うべきである。
- 第 3 ダム右岸上流にある築堤の撤去については、課題整理をしつつ、もう 1 度現地検討を行う。
- ダム右岸側の水抜き穴は、まずゴミを除去し通水を回復させ、様子をみながら再度検討する。

2 世界遺産委員会決議に係る今後の対応について

※保全状況報告にある「コラム」は、本文から外れるが示しておいた方が良い特出し的な印象を受ける。

※羅臼川では捕獲事業の影響や、改良ダム上流の区間が短い等の条件から、図からは改良の効果があったとは読みにくいので、表し方には補足説明が必要である。

※ルシャ川のダムを作る前の河口の状況資料があれば参考となる。

(H26 第1回AP論点)

○「コラム」という表現については、各報告書での出し方がばらばらにならないよう検討する。

○羅臼川の改良効果に誤解を与えないような表現を検討する。

○ルシャ川のダムを作る前の河口の状況資料があれば、元々の議論を行う時に重要な資料となるため、現地視察の時等に提示して頂きたい。

3 オショロコマ長期モニタリングの項目の評価について

※昨年度の調査でオショロコマが採捕されなかったチニシベツ川について誤解されない表現にする。

※評価欄の記載内容については、サケ類の評価のように結果だけでなく考察も記載した方が良い。

※7~8月頃には細く浅い流れとなって、場所では石の下にオショロコマ0歳を見つけることができる。0歳の生息数を押さえておくと、さらに議論を深めることができるのではないか。

(H26 第1回AP論点)

○オショロコマ長期モニタリング調査では、調査手法についての議論を継続するとともに、評価欄の記載について精査する。

4 第2次検討ダムについて

※モセカルベツ川では下流にある旧道路の橋脚が左岸側に張り出しており、河床低下の原因になっていると考えられることから、できれば撤去した方が川としても良い。

※オッカバケ川では第1次改良のイワウベツ川の河道の状況変化が参考となる。

※オッカバケ川のダムの上流堆砂域では、人為的に産卵環境ができています。そこに遡らせることができれば、自然産卵で資源量が増えると予想されるが、知床の本来の川の状況ではないので、人為的な環境で増やすのかどうか議論が必要である。

(H26 第1回AP論点)

○核心区域の中については、できるだけ自然に戻すというのが最終的な合意であるので、その方向に沿ってダム改良検討を進めていきたい。